

漫画でたどる新日本スポーツ連盟55周年

2020年11月12日に創立55周年を迎えます。コロナ禍のなか、残念ながら記念集会はできません。黒沢まゆみさんの「ゆるゆるスポーツライフ歴史編」で55年をふりかえります。

おれたちの力でスポーツのできる生活を

第一回全国青年スポーツ祭典

五六年六月二十日
三ツ沢競技場にて
わが国で初めての
自主的な国民の手による
スポーツ祭典が開催
されました



おれたちの力でスポーツのできる
全国青年スポーツ祭典実行委員会



参加者6万人
(観戦も含む)
三十三道府県
による大パレード

1963年
結成前史
青年スポーツ祭典

△シロ旗を
たくさん並べて
まるで揆のよう
だったな...

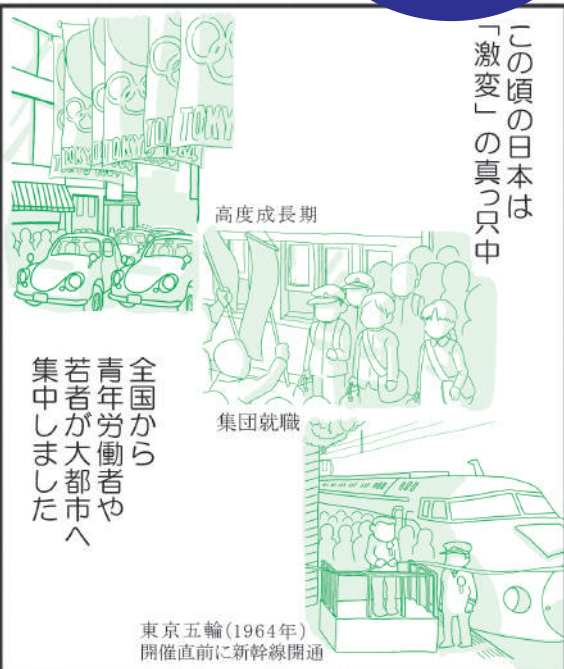
スポーツ集会
つかみこ



いつでも
どこでも
誰もが
スポーツを

おしつけられる
のではなく
もっと自主的に
スポーツがしたい

この頃の日本は
「激変」の真つ只中



高度成長期

集団就職

全国から
青年労働者や
若者が大都市へ
集中しました

東京五輪(1964年)
開催直前に新幹線開通

そんな声が若者を
中心に広まり、
スポーツ界の新しい
歴史が始まろうと
していました

一九六五年
第三回全国青年
スポーツ祭典の
準備段階で

スポーツをできる
若者は相変わら
ず一部の選手に
限られている

市民のための
新しい民主的
全国組織が
必要だと思
わないか

哲学者、教育学者、体育教諭、
登山や空手などのスポーツ愛好者、
全国青年スポーツ祭典実行委員会
関係者を中心に新体連結成の発議
が起こりました

1965年 新日本体育連盟 創立

都心のビルの一室で

三月から十一月までの間
連盟の創立宣言、目的規
約、方針についての論議
が積み重ねられました

創立宣言は日本全国と
世界を展望して九回
書き直されました

哲学者、教育学者、体育教諭、
登山や空手などのスポーツ愛好者、
全国青年スポーツ祭典実行委員会
関係者を中心に新体連結成の発議
が起こりました

体育・スポーツが
少数の人の独占物
であった時代は過
ぎました。
それは万人の権利
でなければなりません

新日本体育連盟
結成！

一九六五年十一月十二日

1970 年前後 各地で 「海の祭典」

中央海の祭典!!

まるで魔法の
ように水に浮く!!

まったくのカナツチが
2日間で泳げるように
なる驚きの泳法とは!?

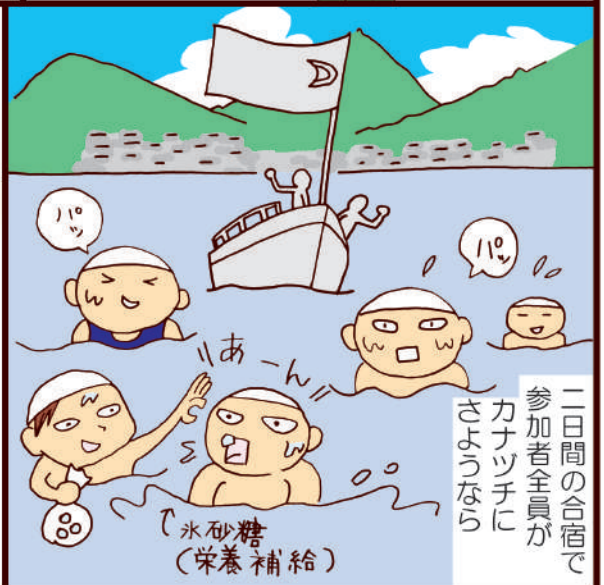
前代未聞!?
カナツチの小学生、
3キロの遠泳に成功

ネット広告に毒された
現代人ならまず信じな
い噂が日本中を飛び交
うようになる。

67年より始まった
「中央海の祭典」
学校体育研究同志会
が開発した泳法
「ドル平」方式
まずは陸上で
呼吸の練習から

和光学園

借り物...o



二日間の合宿で
参加者全員が
カナツチに
さようなら

水砂糖
(栄養補給)

夜はキャンブ
ファイヤーで団結

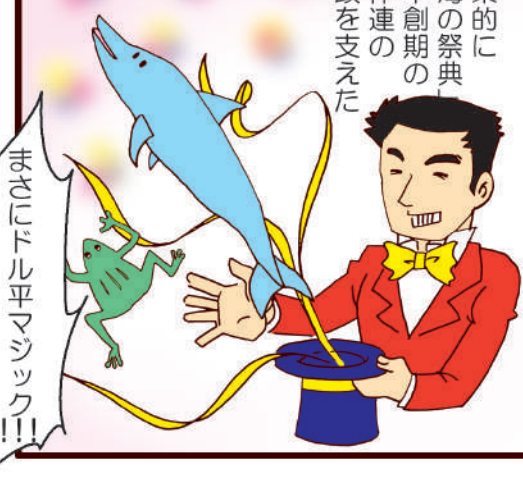


宿舎での生活は
参加メンバーたち
により自主的に
行われました。

第一回目は
130名の参加
でしたが

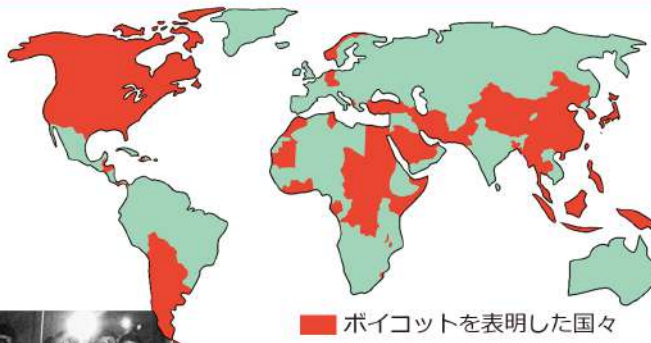
だんだん規模を
増し二泊三日の
日程を三連続で
こなす年もあり
ました

結果的に
「海の祭典」
が草創期の
新体連の
財政を支えた



まさにドル平マジック!!!

一九七九年、旧ソ連のアフガニスタン
 侵攻の影響を受け、冷戦でソ連と対立
 するアメリカがモスクワオリンピックの
 ボイコットを主唱し、日本や西側諸国を
 はじめ、五〇カ国近くがボイコットを
 表明しました。



■ ボイコットを表明した国々

日本オリンピック委員会
 内部では、大会参加を
 めぐって意見が対立しま
 したが、最終的には
 日本政府の方針により
 ボイコットを決定しまし
 た。



当たり前のことだけど

平和じゃないと
 スポーツを楽しむ
 ことができない

確かな平和のために
 核や戦争を世界から
 なくすために



そんな思いから
 一九八二年大阪で
 「反核平和マラソン」
 が始まりました。



「スポーツは平和とともに」

一九八二年の
 全国スポーツ祭典の
 このスローガンは

スポーツを愛する人々の
 想いがこめられているのです

1982年
 大阪で
 反核平和マラソン
 が始まる



1980年代
「スポーツ、
きみが主人公」

第14回全国スポーツ祭典
1982

総合的なスポーツ大会として
充実、定着していきます。

「君が主人公」
スポーツは平和とともに

全国スポーツ祭典は
一九八〇年には第二三回を数え、

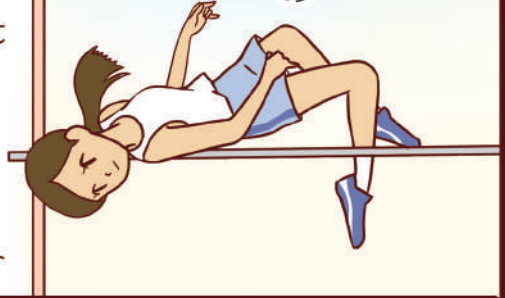
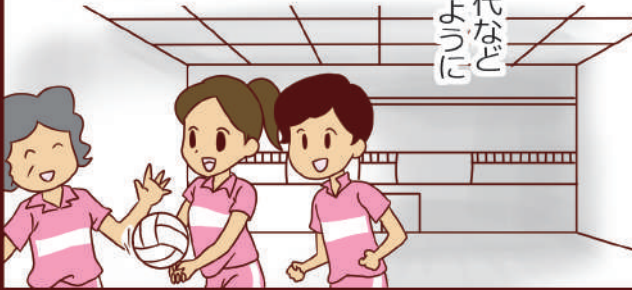


時代は
八〇年代



一方で、陸上三〇〇〇M、
水泳マスターズ大会、
卓球壮年の部など
「年齢別」を取り入れ、
シルバ―世代やママさん世代など
より幅広い層が参加できるように
工夫されました。

インターハイ選手、
国体出場選手などの
ハイレベルの選手が
出場するようになり
競技水準のレベルアップの
動力になりました。



新体連（スポーツ連盟）の
スローガンとなりました。

連盟の目標を示すものとして
広く共感を呼び、

「スポーツは平和とともに」
というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

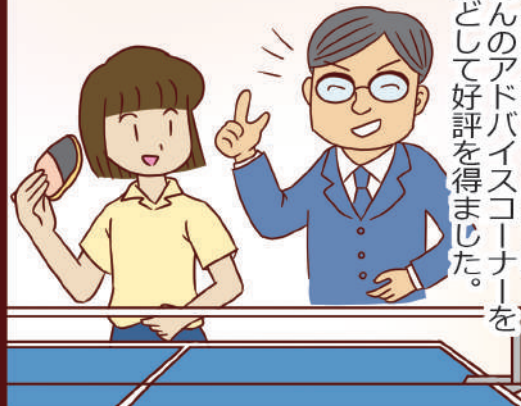
というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

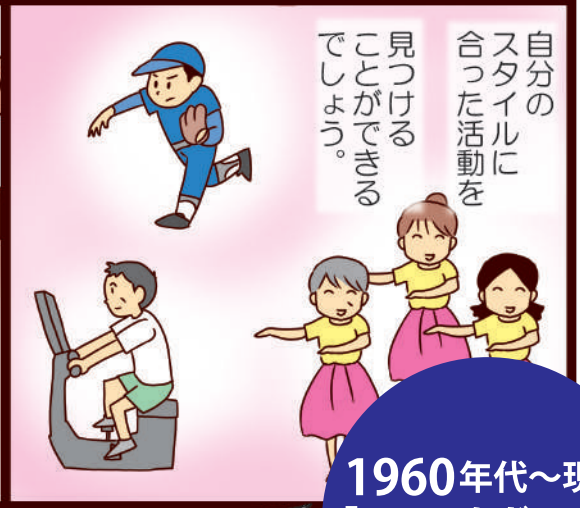
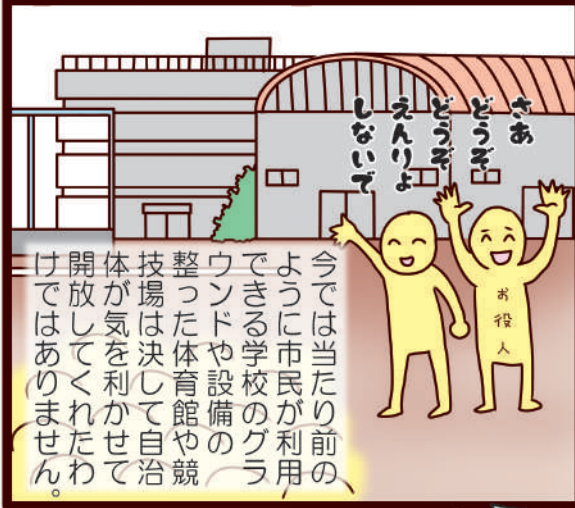
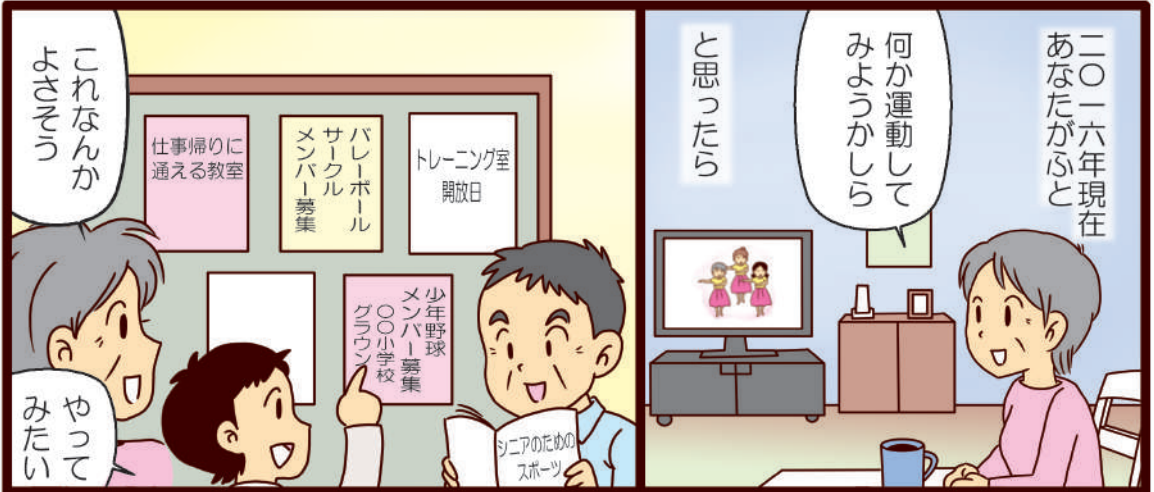
というキャッチフレーズは

「三回、一回で用いられた
「スポーツ、きみが主人公」

というキャッチフレーズは



また、卓球では
一九七七年世界選手権大会
男子シングルスチャンピオンの
河野満さんのアドバンスコーナーを
設けるなどして好評を得ました。

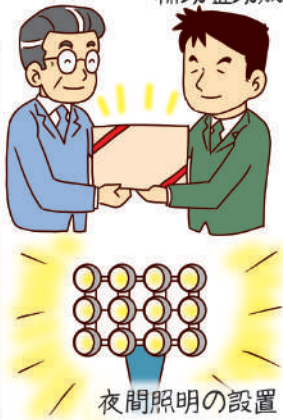
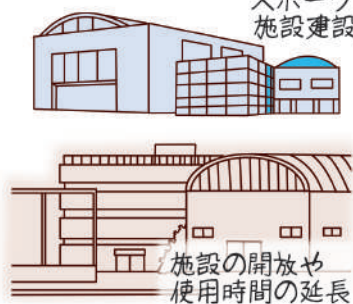


**1960年代～現在
「いつでもどこでも
だれもが
スポーツを」**



**60年代以降、全国各地の新体連が中心となつて
すすめた地道な請願活動が自治体を動かし
さまざまな要求を実現させているのです!!**

スポーツ団体への補助金助成



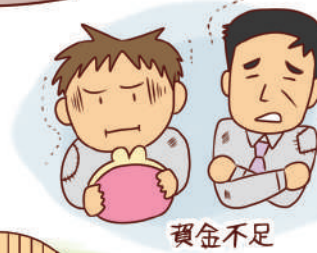
2016年
新日本スポーツ連盟
50周年

新日本スポーツ連盟 第32回 定期全国総会
50年の歴史を継承し新たな歴史を歩もう



三十二回目を数える全国総会からは
全国各地から約五〇名が参加し
JOC(日本オリンピック委員会)
中森康弘氏ほか三名の来賓を迎え
スポーツ庁はじめ三十一の個人・団体より
お祝いのメッセージをいただきました。

雑居ビルの二室からスタートした
新日本スポーツ連盟。



資金不足



施設の確保

紆余曲折、
さまざまな困難を乗り越え
新日本スポーツ連盟は
世間に広く認知される
ようになりました。



他団体からのハッシング

時代とともにスポーツの
在り方も変わっていき
新しい時代のスポーツの
多様化や取り組み方に
新たな課題も出てきます。



新日本スポーツ連盟はこれからも
「スポーツを通して幸せになりたい」
「人を幸せにしたい」
という人々の心に寄り添いながら
新たな挑戦を続けて行くこととしていこう。